

令和7年度 第3回社会教育委員会議 議事録

第3回会議では、第2回会議で明らかになった各班の課題について協議しました。県教育委員会の皆さんをお招きし、それぞれの知見を生かした御意見をいただきました。

【学校教育班】

※ 幼保連携こども園・学校教育関係者の委員のグループ。

| | |
|-------|---|
| 協議内容① | 「多様な個性を認める感覚」や「思いやりの心」の育て方について |
| | <ul style="list-style-type: none">・ 子ども自身が「自分で選択する」という自主性が大事。・ 愛されているという実感があるからこそ挑戦できる。・ 自分のことも大切にすること、嫌なことは嫌と言える環境も大事。・ 「教える」「助ける」という経験、それに対して「感謝される」という経験を積んでほしい。・ 多様性について、外国では絵本などで幼少期から自然に教育している。・ 幼少期の子どもを育てる「親」への啓発が重要。結局、親の考えが子どもに移っていく。高校生ともなると、自分の価値観が固まってくるため、多様性や思いやりに対する感覚を育てるには、時期が遅い気がする。・ こども家庭庁が「はじめの100ヶ月の育ちビジョン」を打ち出している。乳幼児期の教育がいかに重要かということ。・ 様々な背景をもつ大人との出会いを通して、多様性について「知る」ことができる。・ 「認める」とは「言葉」を「忍ぶ」こと。子どもを信頼して見守る姿勢が主体性を引き出すのではないか。 |
| 協議内容② | 「社会の中に課題を見付け、解決していく探究心」の育て方について |
| | <ul style="list-style-type: none">・ 駅や科学技術館などの身近な施設に行ったことがない、調理や裁縫などの簡単な家事に触れたことがない児童が増えているため、できるだけ学校で体験させるようにしている。やはり体験は大事。・ 教育課程との兼ね合いが課題。・ 幼稚園・保育園では自分で選択することの重要性が認知されてきているのに、小学校で途端にカリキュラム化される感じがした。そして中学校・高校では再び自分で探求する力が求められる。学校がカリキュラムとして「させる」のではなく、子どもたちが「自分のやりたいこと(探究したいこと)」を自分で決めて課題解決させることも大切なのではないか。・ 「総合的な学習の時間」も、元々は児童生徒が自分たちで課題を見つけて探究することが目的だったが、いつの間にか「〇年生でやるのは△△」というようにやることが固定され、ただそれをこなすだけになってしまっている学校もある。・ 探究学習の中で、毎週市の職員に来校してもらい、地域の抱える課題について話してもらったことがある。課題を共有すると、より深く考えるようになる。・ 社会人との交流、人の話をよく聞くことは、当事者意識を高める上でとても大切なことだと感じる。・ 当事者意識をもつという意味では、小さい頃から自分の町のイベントに参加し、自分の住む町の |

ことをよく知るということも大事だと思う。

- ・ 人と人を繋ぐという点で大人がかかわる必要がある。「場」さえ提供すればあとはそこに集まった人同士の交流が自然に生まれる。
- ・ 対話が大事。対話することによって、それまでに自分が調べたことや考えたことに深まりが出る。
- ・ 聞く側の問いも大事。
- ・ 受け入れる環境があって初めて挑戦や探究ができる。

【社会・家庭教育A班】

※ 主に地域で「かかわりあい」の場を創出したり、地域学校協働活動に参加したりしている委員のグループ。

| | |
|--|------------------------------------|
| 協議内容 | 「かかわりあい・まじりあい・まなびあい」の質の向上のために必要なこと |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 認め、称賛することは大人にとっても大事。ごみステーションを片付けている人や、道の植栽を整えてくれている人など、見かけたら声を掛け、自治会の班長会などで周知することも大切ではないか。 ・ かつぼ飯作りやバウムクーヘン作りなど、魅力的な活動を計画する必要がある。親世代も体験活動をした経験が少ないため、家族で体験できる活動を企画していきたい。 ・ 問いを与えて考えさせるということも必要。 ・ 郷土料理作りなど、楽しい活動を増やしているところ。調理後は会食を設け、食と会話を楽しむことのできるイベントを企画している。 ・ 「防災」というテーマは全員に関わること。ぜひ積極的に企画していきたい。 ・ 楽しく、面白い体験活動を企画していくことが大事。 | |

【社会・家庭教育B班】

※ 主に障がいの有無や国籍、性別等に関係なく、互いを認め合う社会を形成するために活動している委員のグループ。

| | |
|---|--|
| 協議内容 | ①かかわりあいの「場」のもち方について ②「社会に参加する気持ち」の育て方について |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 大前提として、社会に関わることを必要としていない人、社会に関わること自体に辛さを感じている人の意志も尊重しなければならない。 ・ 誰が、いつ「社会に参加したい」と思うかわからない。「社会に参加したい」という気持ちになったときに、「あのの人に聞けばいいかも。」と頼れる人がいることや、「そういえば、〇〇というイベントがあるって言ってたな…」というような情報があることは大事。声を掛け続け、情報を提供し続けながら寄り添ってくれる存在が必要なのではないか。 ・ 社会に参加しようという気持ちをもって、まだまだ不安定。成功体験を積み、自己有用感を感じる機会があると良い。 ・ 中小企業は人と人との距離が近く、人を見守り育てる環境としてはとても良いと思う。職業人として育ててくれれば企業としても助かるし、これからの経営者は「人を育てる」という視点が欠かせないと思う。 ・ インターンシップで来た学生は、仕事内容が非常にマッチしたようで、今生き生きと働いている。「自分も誰かの役に立てるんだ!!」という気持ちが本人を変えたのだと思う。そういう機会を、地域と連携して創出できるのは、地元企業の強みだと思う。 ・ 自分たちが子どもの頃は、「社会に参加しよう」という気持はなかった。大人になって「そういえば地域の人が見守ってくれてたな、自分も何か役に立たなきゃ。」と思った。今の子どもたちにそういう気持ちを育てたかったら、自分たちが背中で見せ続けるしかない。 | |

